

演題番号：B5

繁殖和牛への野草や自給飼料の活用が血清生化学的性状、ボディコンディションスコアに及ぼす影響

○松山真也，小松 希

和歌山県紀南家保

1. はじめに：近年、燃料、資材、飼料価格等の高騰による生産コストの上昇、子牛価格の低迷は、畜産農家の経営を圧迫している。管内では、飼料費高騰への対策として野草や稲発酵粗飼料（以下WCS）の給与などの取組を新たに始める和牛繁殖農家が増えている。しかし、野草やWCSの活用は、その給与量や品質が適切であるか不明な点も多い。そこで各農家の給与飼料や母牛の栄養状態について調査した。

2. 方法：(1) 給与粗飼料の主体が野草のA農家、WCSのB農家、購入粗飼料と野草のC農家、購入粗飼料のD農家の計4戸の給与飼料の母牛に対する充足率について調査した。(2) 各農家における、分娩後1~3カ月の繁殖母牛の血清生化学的検査・ボディコンディションスコア（以下BCS）、平均初回授精日数・平均分娩間隔・分娩率、及び産子の日齢体重(kg/日齢)の平均値について調査した。(3) 野草やWCS活用のための初期費用について調査した。

3. 結果：(1) 給与飼料はA、C、D農家では問題なかったが、B農家において乾物量・可消化養分総量が不足していたため給与飼料を改善した。(2) 繁殖母牛の血清生化学的検査の結果は、いずれの農家も問題は認められなかった。BCSの

平均値はA、C農家はそれぞれ、3.03 (n=9)、3.06 (n=10) と3.00以上であったが、B、D農家は2.97 (n=9)、2.83 (n=10) と3.00以下であった。平均初回授精日数は、A農家79日、B農家76日、C農家62日、D農家64日、平均分娩間隔は、A農家390日、B農家538日、C農家376日、D農家369日、分娩率は、A農家90%、B農家81%、C農家89%、D農家92%であった。また、子牛市場出荷時の日齢体重の平均値は、各農家とも2年前から減少傾向にあった。(3) 初期機械購入費用は野草給与で約85万円、WCS給与で約300万円であった。

4. 考察：今回、母牛の血清生化学的検査の数値に問題は認められなかったが、BCSの平均値が低い農家があり、分娩間隔が長い傾向にあることから、飼料給与量の不足が原因である可能性が考えられた。野草やWCS等自給飼料の活用は飼料コスト低減に有効な手段だが、飼料の水分含量や生産環境による飼料品質の変化が、繁殖母牛の栄養状態に影響を与える可能性も考えられるため、継続した調査、指導により、農家の所得向上につなげる。